

# 学校関係者評価委員会における主な意見

令和4年6月2日実施

## 1 入学生の確保

- 高大接続改革と同様、農大入試改革を検討してはどうか。
- 生徒数が減少する中、先生方には募集の取組に感謝する。
- 新型コロナウイルス感染症の影響のなか、人材の確保はたいへんだが、今後も引き続き、頑張っていたきたい。
- 入学生の確保の達成度が低い。学部によって定員充足率に差があるので、学部別に学生募集に工夫するなど対策を講じていただきたい。

## 2 学生教育の充実

- コミュニケーション能力が低下していく時代であるが、農家留学研修は大切な取組と思う。
- スマート農業やGAPの取組も強化していることから、そこも成果として評価できると考える。
- 簿記検定の合格実績が思わしくない。就農・就業するにあたっては、簿記記帳で自らの経営や就業先の経営を見るスキルが重要になる。力を入れて指導していただきたい。

## 3 就農・就業の進路指導の充実

- 就農3年後、5年後など、離農率が高くなると聞いたことがある。就農後の離農率の推移を数字で見れると良い。
- JAグループとしては、非農家出身の学生で指導者となるような人材について、農業団体（JAグループなど）への就業を促していただきたい。

## 4 情報発信の強化

- インスタグラムやFacebookにおいて、各学科での活動を果樹科同様に行ってみてはどうか（野菜科、花き科、茶業科）。
- 年輩の方はスマホやパソコンをあまり使わないので、新聞やラジオを活用して農大を紹介していくことも必要ではないか。
- 非農家や進学校、県外者等、様々な出身の方が入学している中、農大の情報発信はとても重要だと感じる。農大のどこに魅力を感じ、どの情報コンテンツが役立ったのかも入学生や卒業生の意見が参考になると思う。
- 情報発信という観点から、HPなどにアクセスしなくても農大の情報が自然と入ってくるような仕掛けを検討できないか。
- 農大紹介ビデオを活用する機会の計画をしっかりと立てていただきたい。
- 農大で開催する校内プロジェクト発表会の内容は、紙面で訴えるよりもZoom等を使って高校生に直接見せた方が内容が伝わるのではないか。農大生が頑張っている姿を見せられ、学生確保につながるのではないか。
- 情報発信において、ある農大生に対し、入学時から卒業するまで、レベルアップしていく成長の過程を随時紹介していくことで、農大のアピールになるのではないか。

## 5 前年の評価委員の意見を踏まえた学校運営改善への取組

- SNSを活用した情報発信を積極的にしておられる様子がわかった。高校でも参考にしたい。
- 前年度に出された意見について対応が出来ていると思う。